

— 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、文章を省略した箇所があります。)

アメリカの音響技師チャールズ・ダグラスは、一九五〇年代に「ラフ・ボックス」という装置を開発した。これは、いくつかの異なる笑い声と拍手がボタン一つで再生されるシステムである。テレビ放送が開始されて間もないころ、ラジオがそうであったように、スタジオに観客を入れた状態でドラマやバラエティを製作することで、ライヴの臨場感を生み出そうとした。(A)、実際の観客というものは、しかるべき笑いのタイミングを外してしまったり、笑い声が過度に長続きしてしまったりなどして、^a「**テイサイ**」の整った番組作りには不向きなところがあった。(B)ダグラスは、すでに録音ずみの笑い声や拍手の音をちょうど良いときに映像に追加するというアイディアを思いついた。「笑いの缶詰」や「偽の笑い」と呼ばれる、録音された笑い声や拍手の音を挿入する技術の誕生である。

今日の日本のテレビ番組でも、こうした効果音が多用されているのは周知のとおりである。また近年では「^①**ワイプ**」と称される小さい画面もよく活用されている。メイン画面の ^b「**カタスミ**」に挿入された小さい画面の中では、スタジオの芸人やタレントたちが映っており、彼らはメインの画面で展開されている出来事を見ている。彼らはしばしばやや大げさな表情や身振りでリアクションを行い、メインの画面で起きていることを説明したり解釈したりする。「笑いの缶詰」も「ワイプ」も、視聴者に調子の良いリアクションとはどのようなものをか指示してくれる。それらの声や表情は「ここで笑うんですよ」「ここは驚くんですよ」などと語ってくれているようなものである。ダグラスが考えたように、実際の観客は笑いのタイミングがわかっていないことがある。映像に、笑い声という合図が付加されることで、視聴者は容易に笑うべきタイミングを知り、それに合わせて笑うことで、間違いなく笑うことができる。

こうした技術は、この笑いのツボはどこにあるのか、この笑いはなにゆえに面白いのかをとりあえず私たちが考えずにすむようにしてくれるという効果をとまなっている。笑い声と一緒に笑っていれば、そこで起きているおかしいことに、とりあえず参加できるといふわけである。この技術は、素材の映像をさらに一層面白くするものであり、それは映像をさらに「気持ち良くする」ものである。この気持ち良さには、笑いのツボを教えることで私たちがそれ以上考えなくて良いようにする、という意味合いも含まれているのだろう。

② 哲学者のストラヴォイ・ジジェクは「笑いの缶詰」のこうした側面を非常に興味深いと言う。「というのも、笑いは義務であって自発的な感情ではないという逆説を含んでいるからだ」。笑いは、おかしいから自ずと生まれる自発的なもののようにでいて、実のところ、どこがおかし

いかを(はつきりと言葉で明示するかは別としても)的確に ハアク しなければ笑えないものでもある。先に述べたように、笑いにはレヴェルがある。おかしきは私たちに、そのおかしみがわかるかと問うてくる。おかしみに触れた私たちにはこれに答える義務が生じる。「笑いの缶詰」は、そのプレッシャーを軽減してくれるというわけである。

そう言えば子供のころ、怪訝けげんな表情を浮かべた父親から「お前はこのギャグの意味をわかって笑っているのか？」と聞かれたのを覚えている。『THE MANZAI』が大人気だった一九八〇年代のはじめ、多分、ツービートの毒舌の漫才か何かを家族で見っていたときだった。子供の知らない人名が列挙されたり、ギャグに独特の角度がついていたり、その上早口でまくしたてもするビートたけしのおかしきは、小学生の筆者にわかるはずがなかった。それでも子供なりににはツービートの面白さがわかっていりつもありでいた。けれども真相は、芸人が変なことを言い、客席から笑いが起こるといいう一連のリズムにつられて、爆笑していただけなのだ。自分が父親になってそのことが良くなる。筆者の息子(小学四年生)は、何がおかしいのかわからないのは明らかなのに、でも、実にタイミングよく、テレビの中の芸人に爆笑し続けている。それを見て、やはりそうだったのか、と膝ひざを打ってしまう。

(C) ジジエクは、「笑いの缶詰」に ③ もう一つの解釈を与えている。「たぶん唯一の正しい答えはこうだ——テレビ受像機の中に X された「他者」がわれわれの代わりに笑ってくれ、われわれを笑いの義務から解放してくれているのだ。だから、たとえ朝から晩まで下らない仕事をし、疲れ果てて帰宅して、深夜までぼけっとテレビを見ていたとしても、後になってこう言うことができるのだ——客観的にみれば、他者を d バイカイとして、本当に楽しい時を過ごすことができた、と」。私たちが欲しているのは、おかしくて笑うこと以上に、笑えるという気分であり、痛快なリズムが続いている楽しい雰囲気なのかもしれない。「笑いの缶詰」は、私たちに笑いの勘所を教えてくれるだけではなく、私たちの代わりに笑うという仕事もしてくれるのである。一人暮らしで暗い部屋に帰って来ると、真っ先にテレビをつける。テレビのバラエティ番組は賑にぎやかで、それだけで部屋の中が楽しい気分になり、心がほっとしてくる。バラエティ番組とは、そうした私たちの楽しさのために存在しているのではないか。

ネタ番組で見せる優れた技量を持て余しながら、芸人たちが条件反射的にその場にちょうど良いふざけたことを口にする、周りのタレントが機転をきかせて、しかし可もなく不可もない合いの手を入れる(もちろんそれが「笑いの缶詰」などの技術的演出の場合もある)。「*天井」や「フリオチ」や「伏線回収」といった技術が形骸化し、それらをそつなく遂行することが良きこととされる。芸人たちやタレントたちが、面白おかしく話を回すという業務を生真面目にこなす ④ バラエティ系会社のサラリーマン」のように見えてくる。そうした約束事だけ

で作られたおかしさは、さしておかしくはない。けれども、調子の良い雰囲気と笑える気分を視聴者に振りまくという目的は十分に果たしている。

視聴者は、こうした雰囲気と気分を欲してテレビをつけるのだろう。これの気持ち良さに慣れてしまえば、難解なおかしさなんてなんら魅力的ではなくなるだろう。(D)、「楽しいこと」と「おかしいこと」とはいつも共存しているわけではない。「楽しいこと」を欲している者にとって、「おかしいこと」が余計に思われることもある。例えば、適度な調子の良さだけを許容するテレビの中では、**Y**、エキセントリックなおかしさは雰囲気を乱す危険な存在に映る。ここにあるべき「楽しい」雰囲気がテレビの「**掟**」おきてとなつて、テレビの作り手や視聴者を支配する。仮にそれが別の視点からは**e**クウンな(おかしくない)ものに見えるとしても、私たちは生真面目に、この「**掟**」の履行に囚われるのである。

大学で笑いに関する授業をしていると、わかりやすさこそが笑いにとって重要と考えている学生たちが結構多いことに気がつく。リズムカ
ルで調子の良い「楽しい」やりとりこそが理想的なのであつて、それを阻害するものは(仮におかしさであつても)悪であるという意識は、
若者のみならず日本社会に広く蔓延まんえんしている。意味不明なノイズは忌み嫌われ、波風の立たないスムーズな状態こそが望ましいとされる。技
巧的な不一致は想定される範囲内であれば歓迎されるが、それ以上の尖とがつたおかしさは求めない。こうした価値観は、テレビ番組だけではな
く、ユーチューバーの動画を見ているでも感じられるところである。

ともかくも⑤ 私たちは、笑える気分^⑤に感染し、それに満たされたいと欲しているのである。

(木村寛『笑いの哲学』講談社)

*注 天井||笑いを取ったフレーズを繰り返すこと。

問一 a く e のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 (A) く (D) に入る言葉として適切なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ言葉を二度以上使つてはいけません。

ア つまり イ しかし ウ あるいは エ そこで オ ところで

問三 Xに入る最も適切な語句を、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 普遍化 イ 一般化 ウ 抽象化 エ 具現化 オ 一元化

問四 Yに入る最も適切な慣用的表現を、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 機先を制した イ 奇をてらった ウ 満を持した エ 匙さしを投げた オ 手を抜いた

問五 — 線部①とはどのような効果を持つものですか、説明しなさい。

問六 — 線部②とありますが、「笑いの缶詰」のどういう点が「非常に興味深い」と言っているのですか、わかりやすく説明しなさい。

問七 — 線部③とはどのような「解釈」ですか、説明しなさい。

問八 — 線部④とはどのような人ですか、説明しなさい。

問九 — 線部⑤とありますが、「笑える気分には感染し、それに満たされたいと欲している」という状況に対して筆者はどのように感じていると言えますか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 笑いの本質がなんであるかを知らず、番組の制作者側が作り出す様々な技術によって、考えようとせずただ楽しい気分や雰囲気沉浸在ることを求めている現代社会の風潮に対して懸念している。

イ テレビ番組が生み出した様々な技術によって笑わされている視聴者に対し嘆きつつも、自らもかつて同じように笑っていたことに気付き、もはや現状をどうすることもできないことに諦めを感じている。

ウ 若者たちは、テレビ番組やユーチューブの動画の笑いに十分満足できていないので、本来の笑いとは何かを検証した上で、これからは笑いを確実に伝えられる技術を確立していくべきだと思っている。

エ 現在の笑いは、かつての笑いとは異質なものとなり、わかりやすさや楽しい気分を求めるだけの表層的な笑いへと変容してしまっている。このため、本来の役割としての風刺性を取り戻す必要があると感じている。

オ かつてはテレビ番組の笑いの技法により、皆が一緒に笑うことを強要されていたが、現代社会では様々なメディアの発展によって、一人一人の要求に沿った笑いが提供されている現状に満足している。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

今は昔、小野篁たかむらといふ人おはしけり。嵯峨さかの帝みかどの御時に、内裏に札を立てたりけるに、「無悪善」と書きたりけり。帝、篁に、「読め」と仰せられたりければ、「読みは読み候まごらひなん。されど①恐れにて候へば、え申し候はじ」と*奏しければ、「ただ申せ」と、たびたび仰せられければ、「②さがなくてよからんと申して候ふぞ。されば、君を呪ひ参らせて候ふなり」と申しければ、「おのれ*放ちては、誰か書かん」と仰せられければ、「さればこそ、申し候はじとは申して候ひつれ」と申すに、帝、「さて、何も書きたらんものは、読みてんや」と、仰せられければ、「③何にても、読み候ひなん」と申しければ、*片仮名の子文字ねを十二書かせて、賜たまひて、「読め」と仰せられければ、「④ねこのこのこねこ、ししのこのこじし」と読みたりければ、⑤帝ほほ笑ませたまひて、事無くてやみにけり。

〔宇治拾遺物語〕

*注 奏す〓天皇に申し上げる。 放ちて〓除外して。

片仮名の子文字〓当時の片仮名では「ネ」の他に「子」も用いた。

問一 —— 線部①、③の現代語訳として最も適切なものを、次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① ア 不吉なことが起こりますので、口にすることはできそうもありません。
- イ 恐怖のあまり、お側近くでお仕え申し上げることはできません。
- ウ 恐れ多いこととございますので、申し上げますことはできません。
- エ 恐ろしい者の仕業でございますので、申し上げます方がいいでしょう。

- ③ ア どんなことをしてもお読みしましょう。
イ どんな文章でもお読みいたしましょう。
ウ 何でも読める者がきつとおりましょう。
エ 誰でもお読み申し上げることでしょう。

問二 — 線部②の説明である次の文の空欄に適語を補いなさい。

「無悪善」は「さがなくてよからん」と読み、「さが」に（ A ）を掛けて、（ A ）が（ B ）（ ）という意味も込められてくる。

問三 — 線部④は「子」を片仮名ではなく漢字として読んでいる。どのように読んだのか、㊦訓読み、㊧音読みに分けて書きなさい。

問四 「嵯峨帝」が「小野篁」の才能を認めていたことが最もよくわかる発言を本文中から探し、その最初の五字を答えなさい。

問五 — 線部⑤で「帝」が「ほほ笑ま」れた理由を説明しなさい。

三

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

有^a窮書生^リ、^①欲食饅頭^{まんぢゆう}。計^b無^{ルニ}從^シ得^ル。一日見^ル市肆^シ有^ル二列^ニ而

* 鬻者^{ひさぐ}。輒^{すなはち}大叫^{イニ}仆^{ビテ}地^{たふる}。主人驚^ニ問^{キテ}。曰、^フ「吾畏^{ハク}二饅頭^{ルト}」。主人曰^{ハク}、

「^②安^{いづクンソ}有^{ランヤト}是^{これ}」。乃^{すなはち}設^{ケテ}二饅頭百枚^{ケテ}一置^ヲ二空室中^キ、閉^{ノニ}之^ニ伺^{チテ}於^ヲ外^{ヘバ}、

寂^{せきトシテ}不^カ聞^ヲ声^ヲ。穴^{シテ}壁^ニ窺^ニ之^ウ、則^{すなはち}食^{ヲフコト}過^グ半^{バラ}矣^ヲ。亟^{すみやかに}開^{キテ}門^ヲ詰^{ナジル}其^ノ

故^ヲ。曰^{ハク}、「^③吾今日見^{ルニ}此^{これヲ}、忽^{たちまち}自^{おのづから}不^ト畏^レ」。主人知^{リテ}二其^ノ詐^{いつはりヲ}、怒^リ叱^{シツシテ}

曰、「若尚有^{ハク}畏^{なんぢ}乎^{ナホ}」。曰^{ハク}、「^④更^ニ畏^{ルル}二臘茶^{らふ}兩^{わんヲ}椀^{のみト}一^ヲ爾^ヲ」。

*注 市肆||町の店。 鬻||売る。 臘茶||上等の茶。

『笑府』

問一 || 線部 a、b と同じ意味の語句を、次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- a ア 窮極 イ 困窮 ウ 窮屈 エ 窮余
- b ア 計画 イ 計上 ウ 生計 エ 会計

問二 || 線部①は「饅頭を食らはんと欲す」と読みますが、これに従って返り点を付けなさい。

問三 — 線部②の意味として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 饅頭が怖いなどと言いがかりをつけるな。

イ どういうわけで饅頭が怖いというのか。

ウ 饅頭が怖いことなどあり得ようか。

エ いつから饅頭が怖くなったのだ。

問四 — 線部③を、「此」の指すものを明らかにしながら、現代語訳しなさい。

問五 — 線部④の発言から伺える発話者の性格を表す言葉として、最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 温雅 イ 卑劣 ウ 律儀 エ 厚顔